

笛吹高校 教科シラバス  
平成30年度

## 学校教育目標

- ◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- ◎広い視野を持ち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成

## 果樹園芸科

### 笛吹高校の3年間で身に付けてほしい力

【 豊 かな 人 間 性 】  
【 課 題 解 決 能 力 】  
【 社 会 性・指 導 性 】  
【 社 会 へ の 参 画 意 識 】

### 1年次の目標

果樹園芸に関する基礎・基本的学習と技能の習得

### 2年次の目標

果樹園芸に関する基礎基本をもとに幅広い専門知識と技能の定着

### 3年次の目標

果樹園芸の専門的技術の活用から経営に関する知識の習得  
問題解決能力の定着と進路実現

### 学ぶ皆さんへの助言・アドバイス

本学科は、果樹や園芸に関する知識・技能を習得し、峡東地域の基礎産業を担うスペシャリストの育成にあります。また農産物の海外輸出などグローバル化社会に対応した視点が求められることから、多くの体験プログラムが用意されています。進路では、就職はもちろん専門学校や4年制大学への進学実績もあり、個々の生徒にあった指導を職員が一丸となって行い進路実現を果たします。将来を見据え目的意識をしっかりと持って何事にも意欲的に取り組んでください。

	教科	科目	
1	国語	国語総合	
2	地理歴史	日本史 A	選択
3	地理歴史	地理 A	選択
4	数学	数学 I	
5	理科	生物基礎	
6	保健体育	体育	
7	保健体育	保健	
8	外国語	コミュニケーション英語 I	
9	外国語	英語表現 I	
10	家庭	家庭基礎	
11	農業	課題研究	
12	農業	野菜	
13	農業	果樹	
14	農業	草花	

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		国語 国語総合	単位	2	履修区分	必修 <u>必修</u>	・必修	・選択
対象学年・類型・コース		2年 食品化学科・果樹園芸科						
使用教科書		『新編 国語総合 改訂版』大修館書店(国総347)						
副教材		カラー版 新国語便覧(第一学習社)						
目標とする 生徒の将来像		将来社会に出て必要とされる基礎学力を身につけるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。						
評価の観点		①【関心・意欲・態度】国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。 ②【話す・聞く能力】目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。 ③【書く能力】相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。 ④【読む能力】文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。 ⑤【知識・理解】伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己 評価			
1 学期	第1回定期試験	・ペンギンはなぜ一列になって歩くのか?	・自然や生物に関する文章に慣れ親しむ姿勢 ・論理の展開をたどり、筆者の主張を正確に読み取る力	④ノート・発言 ③作文 ④定期考査 ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C			
	第2回定期試験	【古文】 ・『枕草子』春はあけぼの ・『伊勢物語』芥川 【現代文】 ・短歌・俳句	・日本の伝統文化としての和歌や短歌を鑑賞し、独自の技法を学ぶ ・ことばや表現から作品世界を深める想像力	⑤音読 ③短歌・俳句作品 ④定期考査 ②グループワーク ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C			
2 学期	第3回定期試験	・コルベ神父 ・崖	・修学旅行を前に、いのちと平和について考える姿勢 ・ことばで自分を表現する力	①授業態度の観察等 ③作文 ④定期考査	A B C A B C A B C			
	第4回定期試験	【漢文】 ・故事 ・史話 【現代文】 ・鏡	・漢文訓読のきまりにしたがって、漢文を正確に書き下し、内容を読み取る力 ・物語のおもしろさを味わう姿勢	⑤音読・小テスト ④プリント・定期考査 ②グループワーク ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C			
3 学期	第5回定期試験	【現代文】 ・何のために「働く」のか 【古文】 ・奥の細道 旅立ち	・自らの職業観について見直す姿勢 ・すぐれた俳文を読むことで古典への興味を養う。 ・自分の生き方について考える	④ノート・発言 ④定期考査 ③作文 ⑤音読・小テスト ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C A B C A B C			
検定資格(時期)		漢字能力検定を年に3回、校内で受検できる機会を用意する。(8月・12月・2月) 受検費用は級に応じて2000~4000円)2級に合格した場合は「国語総合」に1単位増単できる。						
履修にあたって		1年次から継続しての科目である。1年次で習得した知識や考え方をもとにして、自分の生き方とつなげて考える姿勢をもってほしい。そのためには、漢字や文法、語彙の知識は必須である。今年度も漢字テストを行うので、丁寧に、投げ出さず、全回合格を!						

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		日本史A	単位	2	履修区分	必履修 ・ 必修 ・ 選択	
対象学年・類型・コース		1年普通科 2年普通科(選択者) 食品化学科・果樹園芸科(選択者)					
使用教科書		高等学校改訂版 日本史A～人・くらし・未来～(第一学習者)					
目標とする生徒の将来像		我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
評価の観点		①定期試験 ②授業中の関心・意欲・態度・発問の観点等 ③単元ごとに実施する小テストなど					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学期	第1回定期試験	第1章 近代国家の形成と国際関係の推移 第1節 近代への胎動	・江戸時代の日本の対外関係について理解する。 ・近世後半の産業、教育や学問・思想などの発展について理解し、さらに、これらが近代文化の基盤となったことを理解する。	定期試験 ノート提出			
	第2回定期試験	第2節 明治維新 第3節 近代国家の確立	・明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動が起こり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する	定期試験 ノート提出			
2 学期	第3回定期試験	第2章 近代産業の発展と两大戦をめぐる国際情勢 第1節 近代産業の発展と社会運動の展開 第2節 国民生活の変化と文化	・日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命が起こり、資本主義が確立したことを理解する。 ・資本主義の発展によって産業構造が変化し、これにともない、都市における貧民問題や労働問題など、さまざまな社会問題が発生したことを理解する。	定期試験 ノート提出			
	第4回定期試験	第3節 第一次世界大戦と日本 第4節 第二次世界大戦と日本	・第一次世界大戦に日本が参戦した意図、また第一次世界大戦を通しての日本の外交方針について理解する。 ・中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら、太平洋戦争に至る過程を理解する。	定期試験 ノート提出			
3 学期	第5回定期試験	第3章 現代の日本と世界 第1節 日本の再出発 第2節 独立後の政治と対外関係	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の諸改革の内容について理解する。 ・主権回復後の日本の国内的な政治の推移と、新しい外交関係の確立の動きについて理解する	定期試験 ノート提出			
検定資格(時期)		特になし					
諸費用(予定)							
履修にあたって		ただの暗記教科ではなく、「なぜ？」という歴史的な疑問を持って授業に臨むことが大切である。歴史が苦手な生徒でも、授業内での間に積極的に答えることで、苦手を克服することができる。					

教科・科目	地理歴史・地理A	単位数	2	必修	必修 選択
学年・系列・コース	2年 普通科(選択)・食品化学科(選択)・果樹園芸科(選択)・総合学科				
使用教科書	高等学校新地理A・新詳高等地図	副教材	なし		
目標とする生徒の将来像	現代世界の抱えるさまざまな課題を地理的に考察・探求し、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。				
評価の観点	①授業中の関心・意欲・態度、発問に対する思考・判断(10%) ②まとめプリントやノートの作業・整理状況などの表現・処理(10%) ③定期考査による知識・理解(80%)				
学期	単元・教材	主たる目標・つきたい力		評価の観点	
1 学期	1部 ・1章 地球儀や地図からとらえる現代社会  1節 地球上の位置と国家 2節 グローバル化が進む世界  ・2章 人間生活を取り巻く環境  1節 生活に影響を与える環境条件とは 2節 人々の生活と地形 3節 人々の生活と気候	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の運動と時差について理解できる。</li> <li>・グラフや地図等を作成し、世界の結びつきの変化を理解する。</li> <li>・球面上の世界観から世界の諸地域をとらえることができる。</li> <li>・自然環境と人間生活の関係について理解する。</li> <li>・大自然の地域と都市との環境の違いについて理解する。</li> <li>・地形からどのような特徴が読みとれるか理解し、防災 対策まで考える。</li> <li>・気候の特徴を学習し、どのように気候が生活に影響しているか 理解し、食事や住居の特徴について考える。</li> </ul>		①②③	
2 学期	4節 人々の生活と産業 5節 人々の生活と文化  ・3章 世界の諸地域の生活・文化  1節 中国の生活・文化 2節 韓国の生活・文化 3節 東南アジアの生活・文化 4節 インドの生活・文化 5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化 7節 ヨーロッパの生活・文化 8節 ロシアの生活・文化 9節 アメリカ合衆国の生活・文化 10節 ラテンアメリカの生活・文化 11節 オーストラリアの生活・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化を理解する目を養う。</li> <li>・各国の産業・生活・文化について理解する。</li> <li>・それぞれの国の産業の変化についての要因について考えることができる。</li> <li>・多民族・多文化の共生の行われている地域についての諸問題について理解できる。</li> <li>・隣国の人々の生活・文化について理解できる。</li> <li>・隣国との交流や歴史についてさまざまな側面から考えることができる。</li> </ul>		①②③	
3 学期	4章 地球的課題と私たち  1節 複雑にからみ合う地球的課題 2節 世界の環境問題 3節 世界の資源・エネルギー問題 4節 世界の人口問題 5節 世界の食料問題 6節 世界の都市・居住問題  2部 1章 身近にあるさまざまな地図 2章 日本の自然環境と防災 3章 身近な地域の課題と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球規模で発生しているさまざまな課題の解決策や対応方法を理解できる。</li> <li>・主に先進国で発生する課題と発展途上国で発生する課題の共通点や相違点、それらの影響について理解できる。</li> <li>・環境破壊が私たちの生活にどのような影響を与えるか考える ことができる。</li> <li>・環境問題の解決のために我々ができることを考え、実行するためにはどうするのか理解する。</li> </ul>		①②③	
検定資格(時期) 諸費用(予定)	なし				
履修にあたって	日頃から国内外の情勢に興味を持ち、知らない場所がでてきたらすぐに地図帳を開く習慣を身につけよう。それだけで世界に対する意識は変わるはず。また、私たちが生きる地域や世界に広く興味を持ち、よりよい生活を送るためにはどうしたらよいのかを考えよう。授業では、白地図作業があるので、色鉛筆を準備しておこう。				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		数学 I		単位	2	履修区分	必修修	・必修	・選択
対象学年・類型・コース		2年食品化学科・果樹園芸科							
使用教科書		東京書籍 改訂 新 数学 I							
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算力と、基本的な問題解決能力が身につけている</li> <li>・数学を利用して、身近な事象を考察する力が身につけている</li> </ul>							
評価の観点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査による評価80点分</li> <li>・授業の取り組む姿勢、課題提出、小テストの結果を総合的に考慮した20点分</li> </ul>							
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価				
1 学期	第1回定期試験 (実施せず)	第4章 集合と論証 1節 集合と論証 1 集合 2 命題と集合 3 命題と証明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合をそれぞれの場合に適した形で表すことができる</li> <li>・命題や条件の意味を理解する</li> <li>・命題の真偽を集合や反例を用いて判定することができる</li> <li>・命題や条件の意味を理解する。命題の真偽を集合や反例を用いて判定することができる</li> <li>・対偶などを用いて命題を証明しようとすることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合の知識や基本事項が理解できているか</li> <li>・定期試験</li> <li>・課題</li> </ul>					
	第2回定期試験								
2 学期	第3回定期試験 (実施せず)	第5章 データの分析 1節 データの分析 1 データの度数分布表 2 代表値 3 散らばり具合を表す数値 4 分散と標準偏差 5 相関関係 6 相関係数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な統計において、代表値の意味を理解することができる</li> <li>・箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる</li> <li>・偏差の意味を理解し、求めることができる</li> <li>・進学、就職を考えた数学の総合問題演習で基本的な式の四則演算ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なデータを通して、代表値や分散の知識や基本事項が理解でき、データを分析しようとしているか</li> <li>・式の計算が身につけているか</li> <li>・定期試験</li> <li>・課題</li> </ul>					
	第4回定期試験	学び直し復習							
3 学期	第5回定期試験	学び直し復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学、就職を考えた数学の総合問題演習で、割合や方程式、グラフの問題などの問題を解くことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の算数から、数学 I の範囲までの基本的な事項が理解できているか</li> <li>・定期試験</li> <li>・課題</li> </ul>					
検定資格(時期) 諸費用(予定)		数学検定(準2級程度)							
履修にあたって		<p>数学に苦手意識を持っている生徒も多いと思います。後半は、ここまで学んできたことを振り返り、活用できる力を育てていきます。</p> <p>学び直しもしながら進学や就職につながる演習に取り組みます。一つ一つ丁寧に理解しながら進めていくことが大切です。</p>							

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	理科 生物基礎	単位	2	履修区分	必修・必修 ・必修 ・選択
対象学年・類型・コース	2年 果樹園芸科				
使用教科書	『改訂 生物基礎』東京書籍 (生基311)				
副教材					
目標とする 生徒の将来像	遺伝子・健康・環境など、日常生活や社会とのかかわりを考えるために必要な科学的素養を高める。				
評価の観点	①【関心・意欲・態度】生物や生物現象について関心をもち、意欲的に考えるとともに、科学的な見方や考え方を身につける。 ②【思考・判断・表現】生物や生物現象を科学的に考え、的確に説明する。 ③【観察・実験の技能】生物や生物現象について観察・実験の基本操作を習得する。 ④【知識・理解】生物や生物現象について、基本的な知識を身につける。				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法 ※テスト=定期考査含	自己 評価
1 学 期	第1回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の多様性と共通性</li> <li>生命活動とエネルギー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の基本単位は細胞であること、生命活動に必要なエネルギーはATPの化学エネルギー。</li> <li>代謝には酵素が関与している。</li> <li>光合成は、光エネルギーを化学エネルギーに変換する過程である。</li> <li>呼吸は、化学エネルギーをATPの化学エネルギーに変換する過程である。</li> </ul>	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート (酵素の実験) (細胞の観察)	A B C A B C A B C A B C
	第2回定期試験	生物と遺伝子	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝子の本体がDNAであること。</li> <li>DNAはヌクレオチドがつながった高分子化合物で、その構造が二重らせん構造である。</li> <li>DNAの塩基配列が遺伝情報になっている。</li> </ul>	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート (DNAの抽出実験) (体細胞分裂)	A B C A B C A B C A B C
2 学 期	第3回定期試験	遺伝情報の分配	<ul style="list-style-type: none"> <li>体細胞分裂の過程において遺伝情報が均等に分配されること。</li> <li>細胞周期の過程。</li> </ul>		
	第4回定期試験	遺伝情報とタンパク質の合成	<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの遺伝情報がRNAに移され(転写)、RNAの塩基配列がタンパク質のアミノ酸配列に変換されること(翻訳)。</li> <li>すべての体細胞は同じゲノムを持っているが、細胞ごとに異なる遺伝子が発現することで細胞の分化が生じること。</li> </ul>	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C
	第5回定期試験	体内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>体内環境が一定に保たれている仕組み。</li> <li>肝臓や腎臓のつくりやはたらきを学び、体内環境を維持していることを理解する。</li> </ul>	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等 ②③実験レポート (交感神経のはたらきを調べる)	
	検定資格(時期)				
	履修にあたって	授業で指示された問題は必ず解けるようにする。 「なぜ？」という疑問は持ち続け、自分で調べる。 問題集の問題は、完全に理解できるまで繰り返し解く。			

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		保健体育・体育		単位	2	履修区分	必履修	必修	選択
対象学年・類型・コース		2年果樹園芸科							
使用教科書		なし							
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間やルールを厳守し、率先して与えられた役割を確実にこなそうとする、責任感のある生徒。</li> <li>・運動の技能や知識を身につけ、高めていくために努力を継続することができる生徒。</li> <li>・積極的に活動に参加し、自己表現や他者への配慮などのコミュニケーションをとろうとする、信頼できる生徒。</li> </ul>							
評価の観点		<p>①【関心・意欲・態度】 時間やルールを守ることや、仲間とともに積極的に活動へ参加しようとしているか。</p> <p>②【思考・判断】 技能の向上のために、工夫したり、仲間と協力したりしているか。</p> <p>③【技能】 自己の身体を思い通りに扱い、正確な技能が発揮できているか。</p> <p>④【知識・理解】 技能が向上するための身体動作や運動の特性を理解し、知識を理解しているか。</p>							
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価				
1 学期	第1回定期試験	・体づくり運動（体力を高める運動、集合、整頓、列の増減、集団としての行動）	・基礎的な運動能力を身につける ・大きな声を出すとともに、迅速に集団としての協調的な動きができるようになる。	①観察 ②観察 ③テスト ④観察	A B C A B C A B C A B C				
	第2回定期試験	・ソフトボール（男子） ・バレー（女子）	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
2 学期	第3回定期試験	・ペース走	・自己に適したペースを維持して走ったり、ペースの変化に対応して走ったりする。徐々に記録を向上させる努力をする。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
	第4回定期試験	・体づくり運動（体力を高める運動、体ほぐしの運動） ・バスケ（男子） ・サッカー（女子）	・体づくり運動 体動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力向上をはかる。 ・バスケ、サッカー 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
3 学期	第5回定期試験	・バスケ（男子） ・サッカー（女子） ・体育理論	・バスケ、サッカー 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ・体育理論 生涯豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識を身につける。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C				
検定資格(時期)		なし							
諸費用(予定)		なし							
履修にあたって		チャイム前には整列をし、大きな声で挨拶・体操をすることで体育の授業は始まります。お互いに100%で授業に臨みましょう。							



平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		保健体育・保健	単位	1	履修区分	必履修・必修・選択
対象学年・類型・コース		2年果樹園芸科				
使用教科書		現代高等保健体育・現代高等保健体育ノート				
目標とする生徒の将来像		<ul style="list-style-type: none"> <li>健康問題に対して、課題解決をするために、自ら考え、発表したり記述したりできる生徒。</li> <li>生涯にわたって健康を保持増進することができる知識を身につけ、それを活用することができる生徒。</li> </ul>				
評価の観点		<p>①【関心・意欲・態度】 健康問題に対し、興味・関心を持ち、個人であるいは仲間とともに積極的に課題解決をしようとしているか。</p> <p>②【思考・判断】 健康問題を解決するために、個人であるいは仲間とともに工夫したり、協力したりし、考えを見いだしているか。</p> <p>③【知識・理解】 健康問題やそれを解決するための知識を理解し、発言したり記述したりしているか。</p>				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>思春期と健康</li> <li>性意識と性行動の健康</li> <li>結婚生活と健康</li> <li>妊娠・出産と健康</li> <li>家族計画と人工妊娠中絶</li> <li>加齢と健康</li> <li>高齢者のための社会的取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女の体のしくみや性意識の違、結婚生活、高齢者の身体や社会的対策について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①観察</li> <li>②観察</li> <li>③テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A B C</li> <li>A B C</li> <li>A B C</li> </ul>	
2 学期	第4回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>保険制度とその活用</li> <li>医療制度とその活用</li> <li>医薬品と健康</li> <li>さまざまな保健活動や対策・大気汚染と健康</li> <li>水質汚濁・土壌汚染と健康</li> <li>健康被害の防止と環境対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療・保険制度や環境汚染について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①観察</li> <li>②観察</li> <li>③テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A B C</li> <li>A B C</li> <li>A B C</li> </ul>	
3 学期	第5回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境衛生活動のしくみと働き</li> <li>食品衛生活動のしくみと働き</li> <li>食品と環境の保健と私たち</li> <li>働くことと健康</li> <li>労働災害と健康</li> <li>健康的な職業生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の安全衛生面での対策、働くことの意義や労働問題について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①観察</li> <li>②観察</li> <li>③テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A B C</li> <li>A B C</li> <li>A B C</li> </ul>	
検定資格(時期)		なし				
諸費用(予定)		なし				
履修にあたって		現在や将来の日常生活をよりよく生活をしていくために必要な内容を学習します。発言やグループワークなども積極的に行い、主体的に授業に臨みましょう。				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		コミュニケーション英語 I	単位	2	履修区分	履修
対象学年・類型・コース		2年農業科				
使用教科書		VISTA I				
目標とする生徒の将来像		英語の文化における知識や考え方、世界の出来事、日本の状況を理解する 基本的な英語を使って、簡単な話を理解したり、聞き取ることができる 基本的な英語を使って、簡単な考えを書いたり、相手に伝えることができる				
評価の観点		①定期試験 ②授業小テスト ③授業活動への参加状況 ④英単語テスト ⑤標準考査 ⑥提出物				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価	
1 学期	第1回定期試験	Lesson7 Machu Picchu	テーマ：世界遺産のマチュピチについて時制に注意しながら文書を読むことができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
	第2回定期試験	Lesson8 Motalta and Landmines	ゾウのモタラの話を通して人間の愚かな振る舞いが引き起こした出来事について読み取ることができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
2 学期	第3回定期試験	Lesson 9 Dick Bruna	ミッフィーの作者ディク・ブルーナの特徴と社会的役割についての文を関係代名詞に注意しながら読み取ることができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
	第4回定期試験	Lesson10 Tsuji, the Great Pianist	関係副詞や形式主語を用いた文章を読み取ることができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
3 学期	第5回定期試験	Lesson11 Ideas from Nature	分詞構文を理解し、読み手や聞き手の注意を引く表現ができるようにする。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
	第5回定期試験	Lesson12 Steve Jobs	仮定法過去を用いた文章を理解したり、自分の考えなどを述べるようにする。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物		
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)		実用英語技能検定 年間3回(6月、10月、1月) 3級(3400円)、準2級(4800円)、2級(5400円)				
履修にあたって		毎時間の授業に、必ず辞書を持参すること。				

平成 30 年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	英語表現 I	単位	1	履修区分	履修
対象学年・類型・コース	2年農業科				
使用教科書	Be English Expression 1 Standard				
目標とする生徒の将来像	言語や文化に対する理解を深め、コミュニケーションを図ろうとする態度を養うと共に、論理的な思考力を養い、論理の展開や表現の方法を工夫し、伝える能力を養う。				
評価の観点	①定期試験 ②授業小テスト ③授業活動への参加状況 ④ハンコカード ⑤提出物				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1 学期	第1回定期試験	Lesson 5	・能力・可能・意志・依頼を表す助動詞を理解し、それらを活用した表現活動ができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・ハンコカード	
	第2回定期試験	Lesson 6	・許可・義務・後悔や非難を表す助動詞を理解し、それらを活用した表現活動ができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・ハンコカード	
2 学期	第3回定期試験	Lesson 7 Lesson 8	・確信・推測・推量を表す助動詞を理解し、それらを活用した表現活動ができる。 ・受動態について理解し、表現活動ができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・ハンコカード	
	第4回定期試験	Lesson 9	・SV00、SV0Cの文型を理解し、それらを活用した表現活動ができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・ハンコカード	
3 学期	第5回定期試験	Lesson 10 Lesson 11	・不定詞について理解し、文章を書いたり、発表する等の表現活動ができる。	・定期試験 ・授業活動への参加 ・提出物 ・ハンコカード	
	検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	実用英語技能検定 年間3回(6月、10月、1月) 3級(3400円)、準2級(4800円)、2級(5400円)			
	履修にあたって	・毎時間の授業に、必ず辞書を持参すること。 ・授業内ではジェラルディーン先生との活動もあります。			

平成 30 年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	家庭・家庭基礎	単位	2	履修区分	必履修・選択
対象学年・類型・コース	2年・果樹園芸科				
使用教科書	新家庭基礎 未来へつなぐパートナーシップ				
目標とする 生徒の将来像	人の一生、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、食生活、衣生活、住生活、消費生活、環境などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活における課題を見つけ、自ら解決する力を身につけるとともに、実践的な学習を通して、家庭生活の充実向上をめざし、実現できる力をつけます。				
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】生活に関心をもっているか。意欲的、積極的に課題解決しようとしているか。</p> <p>【思考・判断・表現】家庭や地域の生活について見直し、課題をみつけ、その解決を目指して、学んだ知識・技術を生かしたいいくつかの方法を比較検討し、意思決定をするなど工夫し創造しているか。まとめて表現できる技術などの技術を応用発展させ、その成果を適切に表現しているか。</p> <p>【技能】家庭や地域の生活に関する基礎的・基本的な技術を習得しているか。調査・観察などの技術を身につけているか。</p> <p>【知識・理解】人間の発達と生活の営みとのかかわり、家族・家庭生活の意義、家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な知識などについて、断片的ではなく実際の生活の充実向上に役立つよう総合的に理解しているか。</p>				
学期	期間	単元・教材名	主たる目標	評価の観点	
1 学期	第1回定期試験	1章人と関わって生きる 生き方・子どもを知る	人の一生を生涯発達の視点で捉える。共に支え合って生活する重要性を理解する。	【知・理】 【関・意・態】	
		2章衣生活を作る 関わり、素材・管理・環境	衣生活の変化、現状や問題点を把握し、自らの衣生活と結びつけて学ぶ。	【知・理】 【関・意・態】	
	第2回定期試験	生活・発達・親になる 私たちの食生活	子どもを産み育てることの意義を知る。より良い食生活について考える。	【知・理】 【思・判・表】	
		全ての人が快適な衣生活 衣服の形・デザイン・実習	エプロン製作を通じて裁縫道具・ミシの扱い方、ボタン付け等ができるようにする。	【関・意・態】 【技】	
2 学期	第3回定期試験	1章食生活をつくる 栄養と食品の関わり	健康で安全な食生活を営むために必要な栄養素の基本的知識を習得する。	【知・理】 【関・意・態】	
		3章住生活を作る 関わり・計画・環境	住宅の種類や住空間の構成について理解し、ライフスタイルにあった住居の選択ができる	【知・理】 【思・判・表】	
	第4回定期試験	1章食生活を作る 食品の選び方と調理	食品の栄養的特徴と調理上の性質を理解し、基本的な技術と知識を習得する。	【関・意・態】 【技】	
		住居平面図 これからの住まい	生活行為と住空間の種類、広さ、配置などの基本的な考え方を知り、平面図を作成する	【関・意・態】 【技】	
3 学期	第5回定期試験	3章高齢者とのかかわる	高齢期の特徴と高齢社会の課題について理解する。地域社会での役割について考える。	【知・理】 【関・意・態】	
		4章社会と関わる			
		3編消費者として自立する	自らも消費者であることを理解し、消費に関する正しい情報を得られる力を身に付ける	【知・理】 【思・判・表】	
検定資格(時期)	全国高等学校家庭科食物調理技術検定4級(前期7月・600円)				
・ 諸費用(予定)	前期で不合格だった場合、希望者は後期試験(後期1月・600円)受験可能 次年度、食文化 選択者は3級受験予定				
履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2単位の授業を1単位ずつ教科書も分けて2人の教員で担当します。</li> <li>・講義、調理・被服製作実習、体験学習、調査・研究、ホームプロジェクトなどの学習を通して、社会のさまざまな現象についてより深い理解と関心を高め、生活に生きて働く力をつけていきたいと思います。</li> <li>・授業は、みなさんが主役です。自分の意見をしっかりと持ち、仲間の意見には耳を傾け、真面目に主体的に取り組みましょう。発展学習にも積極的に挑戦し取り組みましょう。</li> </ul>				

教科・科目	農業・課題研究(資格取得)	単位数	2	必修・必修・選択
学年・系列・コース	2年果樹園芸科			
使用教科書	副教材	テキストおよび問題集		
目標とする生徒の将来像	どんな職業に就いても常に向上心を持ち続け、自身のスキルアップのために必要な資格取得に挑戦し、さらに社会の一員として貢献できる人材を育成することを目指す。			
評価の観点	①関心・意欲・態度:テキスト・問題集、ノート、筆記用具を準備し、私語なく意欲的に取組んだ。 ②思考・判断・表現:理解が難しい専門用語を洗い出し理解しようとしている。ポイントを整理しまとめることができる。ノートへの記載や資料が整理され誰でも見やすい状態である。 ③技能:資格を取得した ④知識・理解:小テストで7割以上理解できた。			
学期	単元・教材	主たる目標・つきたい力		評価の観点
1学期	・第1章 栽培の基礎 ・第2章 作物 ・第3章 野菜 ・第4章 花き	・各単元のポイントが理解できた ・各単元のポイントが理解できた		・中間評価 ①10%②10%④80% ・学期末評価 ①10%②10%④80%
2学期	・第5章 果樹 ・第6章 家畜の飼育 ・第7章 農業機械 ・第8章 農業施設	・各単元のポイントが理解できた ・各単元のポイントが理解できた		・中間評価 ①10%②10%④80% ・学期末評価 ①10%②10%④80%
3学期	・第9章 農産物加工 ・第10章 農業経営 ・第11章 農業と暮らし	・各単元のポイントが理解できた ・各単元のポイントが理解できた		・中間評価 ①10%②10%④80% ・学年末評価 ①10%②10%③20%④60%
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	○日本農業技術検定 検定試験:7月および12月の2回 検定会場:本校園芸実習室(中館3階) 検定料:1540円 テキスト代:3級1296円、2級1728円 問題集:864円			
履修にあたって	・必ずテキストおよび問題集を購入すること ・必ず年1回以上検定試験を受験すること ・全員合格を目指しますので意欲的に学習に取り組むこと ・授業の進め方については、1時間目は単元にしがった学習を行い、2時間目は自分の進度にあわせ自主学習を行う。			

教科・科目		農業・「野菜」	単位数	3	必修	必修	選択
学年・系列・コース		2年・果樹園芸科					
使用教科書		野菜(実教出版)	副教材	自作プリント等			
目標とする生徒の将来像		・露地野菜を教材とする体験的、探究的学習を通して、科学的思考力と課題解決能力を有し、野菜栽培に高い興味・関心があり、農業に関する基礎的・基本的な知識・技術を備えた生徒。					
評価の観点		①関心・意欲・態度：露地野菜栽培に興味・関心を持ち、主体的かつ意欲的に授業に取り組む態度を身につけている。 ②思考・判断・表現：露地野菜の生理生態的な特性を踏まえて、生育状況などを合理的に判断し説明できる。 ③技能：露地野菜それぞれの栽培特性を踏まえて、基本的技術を駆使できる。					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1学期	第1回定期考査	①野菜の種類と利用 ②野菜の種類 ③野菜の産地と来歴 ④スイートコーンの栽培(1) ⑤ネギの栽培(1) ⑥サトイモの栽培(1)	①世界で栽培されている野菜の種類、食生活の多様化野菜の利用や輸入の状況が分かる。 ②野菜の自然分類(何科か?)、利用部位による分類が分かる。 ③主な夏野菜の原産地と来歴が分かる。 ④スイートコーンの播種・間引きの目的と方法が分かる。 ⑤ネギの定植の方法とその意味が分かる。 ⑥サトイモ球茎の植付方法とその意味が分かる。	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
	第2回定期考査	①タマネギ・スイートコーン・ジャガイモの植物分類学上の位置と原産地、来歴 ②スイートコーンの栽培(2) ③タマネギの栽培(1) ④サトイモの栽培(2) ⑤野菜の原産地と来歴	①タマネギ・スイートコーン・ジャガイモの植物分類学上の位置と原産地、来歴が分かる。 ②スイートコーンの追肥方法とその意味が分かる。 ③タマネギの収穫時期の目安、収穫方法、調整ができる。 ④サトイモ塊茎の植付方法とその意味が分かる。 ⑤秋野菜の原産地と来歴が分かる。	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
2学期	第3回定期考査	①ブロッコリー・キャベツ・ダイコン・ニンジン・ラッカセイ・サトイモの植物分類学上の位置と原産地、来歴 ②野菜の生育と生理 ③アブラナ科野菜の栽培(1)	①ブロッコリー・キャベツ・ダイコン・ニンジン・ラッカセイ・サトイモの植物分類学上の位置と原産地、来歴が分かる。 ②野菜の栄養成長と生殖成長の意味と関係およびそれぞれの栽培管理が理解できる。 ③アブラナ科野菜(ダイコン・ブロッコリー・キャベツ)の播種・定植などができる。	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
	第4回定期考査	①アブラナ科野菜の栽培(2) ②サトイモの栽培(3) ③ネギの栽培(3) ④ラッカセイの栽培 ⑤野菜の販売を通じた地域交流	①アブラナ科野菜の収穫時期を見極め、実際に収穫ができる。 ②サトイモの収穫時期を見極め、実際に収穫・調整ができる。 ③ネギの栽培収穫時期を見極め、実際に収穫・調整ができる。 ④ラッカセイの見極め、実際に収穫・調整ができる。 ⑤ふれあいフェスタ笛吹での販売を通して地域住民と円滑に交流できる。	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
3学期	第5回定期考査	①植物の種子発芽 ②土壌と施肥 ③野菜苗の生産	①植物の種子発芽の条件や発芽のメカニズムが植物生理学的に説明できる。種子の発芽と光への反応(好光性種子等)が野菜の種類によって違うことが分かる。 ②栽培に好適な土壌条件(物理性、化学性、生物性)が理解できる。 ③野菜苗の生産の手順や利点(収益性)が理解できる。用土の準備(水蒸気殺菌を含む)ができる。	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
検定資格(時期)・諸費用(予定)		特になし。					
履修にあたって		・附属農場での授業が主であるため、連絡がないかぎり、座学(教科書、ノート、筆記用具)・実習(実習服・帽子など)の両方の準備をして来ること。 ・特に実習では、農機具類を使用する場面が多く安全第一、怪我防止等には十分考慮する必要があるため、職員の説明をしっかりと聞くことや指示には絶対に従うこと。 ・農場への移動に時間がかかるため、授業が速やかに開始できるよう迅速に行動すること。					

教科・科目	農業・果樹		単位数		必修修	必修	選択
学年・系列・コース	2年・果樹園芸科						
使用教科書	果樹(実教出版)		副教材				
目標とする生徒の将来像	地域の基幹産業である果樹栽培の担い手として、地域のリーダーとなり果樹産業の発展に貢献する。						
評価の観点	①関心・意欲・態度:授業への準備が整っており、話しを聞く姿勢や態度が良好で集中して意欲的に取り組める。 ②思考・判断・表現:教科書を理解して聴きやすく音読できる。ノートへの記載や資料が整理されている。調査研究内容をレポートにまとめ考察し発表することができる。果樹の生育状況を判断し適切な管理方法を理解している。 ③技能:年間をととして果樹の栽培技術や生育状況にあわせた管理技術を習得している。 ④知識・理解:果樹に関する専門用語や生理生態の基礎を理解できる。果樹栽培の管理方法を理解している。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1学期	第1回定期考査	・ブドウの生育と管理 ・新梢管理	・ブドウの年間管理作業と目的を理解する ・教材であるブドウの構造と名称が分かる ・ブドウの新梢管理(芽かき・誘引)の目的と効果を理解しその方法を習得する ・新梢調査の方法と測定器具の扱いが正確にできる ・調査データを適正に記録管理する力	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
	第2回定期考査	・主なブドウの品種と特性 ・着果調節	・ブドウの品種特性が理解できる ・ブドウの適正着果数と調整方法が理解できる ・品種によるブドウの房づくりの違いを知りその方法を習得する ・房の大きさを左右する摘粒方法を習得する ・果房管理の目的とその方法を習得する	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
2学期	第3回定期考査	・収穫調整 ・病虫害防除	・ブドウの収穫適期が判断できる ・ブドウの出荷調整方法がわかる ・主な果樹の病虫害が分かる ・病虫害防除の方法とその特徴が理解できる ・病虫害の観察とスケッチが正確にできる	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
	第4回定期考査	・果樹の生育と管理 ・土壌管理	・果樹の基本的生育とその管理内容が理解できる ・土壌表面の管理法とその特徴が分かる ・果樹に適した土壌構造とその特徴が理解できる ・果樹の生育に必要な肥料要素と効果が分かる ・適正施肥料を計算する力	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
3学期	第5回定期考査	・整枝剪定 ・果樹の施設栽培	・ブドウの仕立て方とその特徴を理解できる ・ブドウの整枝剪定の目的と方法を理解できる ・施設栽培の利点や欠点を理解できる	○定期考査 7 0% ○取組姿勢 10% ○提出物 5% ○農業 クラブ活動 10% ○技能 5%	A・B・C A・B・C A・B・C		
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)	特になし						
履修にあたって	・付属農場での授業が主であるため、連絡がないかぎり、座学(教科書、ノート、筆記用具)・実習(実習服・帽子など)の両方の準備をして来ること。 ・特に実習では、農機具類を使用する場面が多く安全第一、怪我防止等には十分考慮する必要があるため、職員の説明をしっかりと聞くことや指示には絶対に従うこと。 ・農場への移動に時間がかかるため、授業が速やかに開始できるよう迅速に行動すること。						

教科・科目		農業・草花	単位数		必修	必修	選択
学年・系列・コース		2学年・果樹園芸科					
使用教科書		草花(実教)	副教材	自作プリント等			
目標とする生徒の将来像		1 花きの基本的な生理生態を理解し、基礎的な研究に取り組み、実験実習から確かな学力とする。 2 季節に応じた一年草を知り、基本的な栽培方法を学習する。					
評価の観点		①草花の生産が、人々の暮らしを豊かにする素材を提供する社会的な役割を担っており、品質の向上と労働生産性や資本生産性などの向上を図る能力と態度を身につけている。 ②課題解決的な学習活動などを通して、各種草花栽培に応用できる体系的な知識と技術を習得している。 ③草花栽培に関する、基本的、体系的な知識と技術を習得し、技能の習熟を図る実践的な栽培活動と知識の深化ができています。 ④草花の体験的、継続的な栽培活動と観察、実験、調査、記録などをとおして草花の生理・生態的な特性や栽培環境及びそれらと生育の相互関係を理解している。					
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価		
1 学期	第1 回 定期 考査	草花の繁殖方法  園芸デザイン	種子のつくりと発芽を理解する。 栽培方法の1つを理解する。(セルトレイ栽培) 露地栽培による春まき1年草を理解する。 花壇デザインの種類を理解する。	③定期試験 70 ②④定期試験での実験実習への理解 25  ①実験実習への参加状況の観察 5	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C		
	第2 回 定期 考査	草花の繁殖方法  園芸デザイン	播種の用土や方法を理解する。 栄養繁殖を理解する。 春まき1年草を理解する。 園芸デザインと草花の装飾的特性を知る。 園芸デザインの基本を理解する。	③定期試験 70 ②④定期試験での実験実習への理解 25  ①実験実習への参加状況の観察 5	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C		
2 学期	第3 回 定期 考査	鉢花  草花の繁殖 生育開花調節と作型	キク・ポインセチアの栽培的・経営的特性・種類品種・栽培管理を理解する。 春まき1年草を理解する。 草姿を左右する条件を理解し栽培管理・温度・植物成長調節剤による調節を知る。 温度や日長処理による開花調節技術を知る。	③定期試験 70 ②④定期試験での実験実習への理解 25  ①実験実習への参加状況の観察 5	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C		
	第4 回 定期 考査	草花の種類 花壇用草花生産の特色	植物学的分類・園芸的分類を理解する。 花壇用草花の特性を知る。	③定期試験 70 ②④定期試験での実験実習への理解 25  ①実験実習への参加状況の観察 5	A・B・C A・B・C		
3 学期	第5 回 定期 考査	草花の生育と栽培技術 園芸デザイン 鉢花	草花の生育と土・水・肥料について理解する。 園芸デザインの実際を行う。 プリムラ類の栽培的・経営的特性・種類品種・栽培管理を理解する。	③定期試験 65 ②作品表現 10 ②④定期試験での実験実習への理解 20  ①実験実習への参加状況の観察 5	A・B・C A・B・C A・B・C		
		草花の繁殖方法	促成栽培の春まき1年草を理解する。		A・B・C		
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)							
履修にあたって		2年次の必修基幹科目です。1年草や宿根草など園芸的分類から理解し、それらが、鉢花・苗物として栽培管理され出荷するまでを学習します。秋から冬にかけては、ドライフラワーを中心とした作品制作を行います。					